

施設所管課室評価様式

1 評価対象及び評価者

(1) 評価対象年度	令和 4 年度	(2) 整理番号	25
(3) 施設名	和歌山県和歌山マリーナ（ディンギーマリーナ）		
(4) 所管課室	県土整備部 港湾空港局 港湾空港振興課		
(5) 評価者（所管課室長名）	課長 安井 英晶		

2 評価内容（5段階評価）

(1) 施設効用の最大限発揮	評価	4 （優れている。）
<p>評価の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が長期化する中で、中央競技団体である日本セーリング連盟と連携し、セーリングにおける大会及び練習のガイドラインを徹底し、全国高校総体ヨット競技（インターハイ）を始め、4つの全日本選手権をはじめ全国大会、地区大会を例年並みに実施した。 ・セーリングナショナルトレーニングセンターで、次世代の選手を発掘育成強化する事業を開始し、年間のべ132日間の合宿を始め、のべ467日のプログラムを実施した。 ・全国高校総体ヨット競技について、実績が高く評価され令和16年（2034年）までの固定開催が決定した。 		
(2) 効率的な管理運営	評価	3 （普通。）
<p>評価の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技会だけでなく、様々なイベントを積極的に開催することにより、トップアスリートだけでなく、初心者向けの参加を募り、セーリング競技の裾野を広げる取り組みを行っている。 ・新型コロナウイルス感染症の対策を強化するため、新型コロナウイルス感染症対応病院と連携協定を結び、合宿の参加者等を対象に、施設内で抗原検査を実施した。 		

3 総合評価

<ul style="list-style-type: none"> ・トップレベルの競技者の育成に尽力するとともに、競技人口拡大のため、セーリング教室や体験会開催によりマリンスポーツ振興に寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症について、競技者及び参加者に蔓延させないよう様々な対策を講じている。 ・ワールドマスタースゲームズの延期に伴い、継続的にマスタース世代を対象とした競技会を企画・実施し、生涯スポーツとしてのセーリング普及に寄与している。
--